

地域課題・目指す将来像

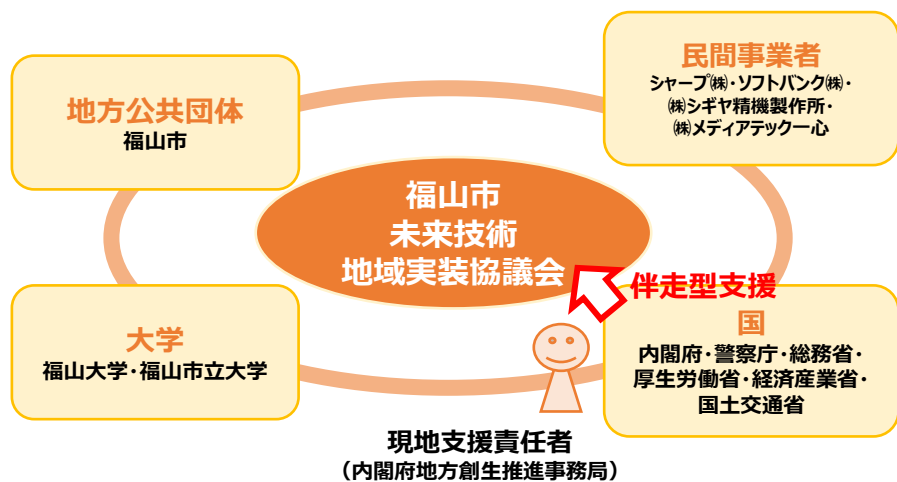
地域課題

- 公共交通の利用者減少やドライバーの人手不足による路線バスの減便・廃止に対応した移動手段の確保
- 駅前から市内の観光地にアクセスするための新しい移動サービスの確立
- モビリティサービスと連携した持続可能な生活サービスのモデル構築

将来像

- 産学官が連携して先端技術を活用した地域課題解決のための協議をする場である「デジタル化推進会議」と、企業などの独自の技術やアイデアを活用して社会課題等の実証実験を市が支援する「実証実験まるごとサポート事業」という2つの事業を両輪とし、新たな価値の創造による好循環を生み出し、未来をリードする都市を実現する

推進体制



課題解決に向けた取組

(写真：福山市提供)

モビリティ

- オンデマンドモビリティについては、路線バスの維持が困難な中山間地域や交通不便地域へのオンデマンド乗合タクシーの実装による交通弱者の移動支援
- 自動走行については、中心市街地等での、バス型車両を用いた自動走行の実証実験の実施と合わせた走行ルートを選定や走行環境の整備

観光

- 観光用MaaSアプリと連携し、利用者の周遊ルートや中心市街地等での人流データの分析による新しい移動手段や観光コンテンツの開拓等

医療・ヘルスケア

- 患者が車両内でかかりつけ医によるオンライン診療や一部の医療サービスを患者宅に届けるなど、規制緩和に続くオンライン診療の恒久化の流れに対応できるよう、オンラインとオフラインを融合した新たな医療体制の実証



オンデマンドモビリティ



自動運転



観光MaaS

2022年度の  
主な取組

【モビリティ】

- 交通不便地域など、オンデマンド乗合タクシーの導入地域を拡大
- 福山駅周辺ウォークアブルエリアで、グリーンスローモビリティとMaaSアプリを連携させる実証実験を実施

取組内容

(写真・図：福山市提供)

新モビリティサービス実証実験

( ①2021年11月1日～2022年1月30日  
②2022年8月8日～2022年10月30日 )

@福山駅周辺ウォーカブル  
エリア

【実証概要】

- グリーンスローモビリティなどの新たなモビリティサービスを活用することで、市内の移動における利便性向上や地域の活性化につながるかを検証
- 福山駅周辺ウォーカブルエリア内の回遊性向上や観光地等での移動支援、地域交通の利用促進などのため、多様なサービス（観光、商業、医療など）と連携させる実証実験を実施

【取組内容】

- ① 2021年度  
グリーンスローモビリティによる移動支援と店舗・施設などの様々なサービスを連携（クーポン付与）させる実証実験を実施
- ② 2022年度  
2021年度の結果を受け、運行エリアの拡大（中央図書館周辺）及びMaaSアプリとの連携を実施

【成果】

- 2021年度は約1,200人（電子クーポン利用44件）、2022年度は約3,800人（電子クーポン利用220件）に利用いただき、ウォーカブルエリア内の移動の利便性向上及び協力店舗における消費喚起に一定の寄与があった
- 利用者アンケートでは、「移動が楽になる」「外出機会が増える」など、肯定的な意見が多く、有用性が確認できた。一方、「これまで知らなかった」「運行時間を伸ばしてほしい」など、要望・意見も一定数認められたため、今後の課題も残った



取組内容

(写真・図：福山市提供)

自動運転実証実験

( ①2018年3月1日～2018年3月2日  
②2019年3月28日～2018年3月29日  
③2021年3月25日～2021年3月26日  
④2022年3月22日 )

@市内郊外団地・中心部

【実証概要】

- 都市魅力の向上や公共交通の維持、高齢者の移動手段確保など、地域のニーズや課題を踏まえた実証実験を実施
- 市内における自動走行の実証実験の積み重ねにより、自動走行技術の検証のほか、住民の理解や導入に向けた機運醸成をはかる
- バス型車両（レベル3技術搭載）を用いて実証実験を進め、将来的に自動運転レベル4以上の自動運転バスの社会実装をめざす

【取組内容】

- ① 2017年度  
日吉台団地（郊外のオールドニュータウン）での乗用車タイプの車両を用いた実験を実施
- ② 2018年度  
お出かけ支援事業のコースの一部での乗用車タイプの車両を用いた実験を実施
- ③ 2020年度  
市内中心部の幹線道路でのバス型車両を用いた実験を実施
- ④ 2021年度  
一部の閉鎖空間で、遠隔監視による運転席無人の自動運転の実験を実施  
市内中心部の幹線道路でのバス型車両を用いた実験を実施



2021年度の実証実験の様子



取組内容

(写真・図：福山市提供)

キャッシュレス決済の普及促進

①2020年1月～  
②2020年9月、2020年12月～2021年1月、2021年12月～2022年1月  
③2021年4月1日～

➤ 全庁的な導入を見据えた公共施設におけるキャッシュレス決済の試行のほか、コロナ禍における消費喚起とキャッシュレス決済のさらなる普及を目的としたキャンペーンを実施

①公共施設窓口におけるキャッシュレス決済の試行

…福山城博物館など市の文化観光施設4施設の窓口で、QRコード決済を試行。新型コロナウイルスによる休館や利用者減などの影響があったものの、本格的に導入する際の課題整理などを行った

②市内での普及促進キャンペーン

…消費の喚起とキャッシュレス決済の普及促進のため、9月は市内850か所の飲食店で、12月は市内5000か所の飲食店・小売店・サービス業等で「PayPay」での決済に還元を行うキャンペーンを実施  
…翌年12月には、対象決済方法を「au PAY」「d払い」「PayPay」の3社に拡大し、飲食店・タクシー等でキャンペーンを実施  
期間中は、市内のキャッシュレス決済実績が大幅に伸び、新たにキャッシュレス決済を導入する店舗が増加するなど、キャッシュレス決済の普及につながった

③市税・料金等がスマホ決済アプリで支払い可能に

…スマートフォン決済アプリ（「PayPay」、「LINE Pay」、「PayB」）で市税及び保険料、保育料などの支払を可能にした。市役所の窓口やコンビニエンスストア、金融機関等へ行くことなく納付手続きが可能となった



文化観光施設窓口におけるキャッシュレス決済試行

取組内容

(写真・図：福山市提供)

自らの健康状態を把握できる各種サービスの実証実験

- ① 2020年2月～2020年12月
- ② 2018年12月3日～2020年12月2日
- ③ 2021年3月22日～2022年3月31日

➤ 地域課題の解決に資する企業の実証実験を市が支援する「実証実験まるごとサポート事業」として、PHR※を見据え、自らの健康状態を把握できる各種サービスの実証実験の実施を支援

① 見守りライトを活用した認知機能の低下等を予見する実証実験

〔期間〕2020年2月～2020年12月

…高齢者の自宅トイレにSIM付きLED電球を設置し、ライトのオン・オフによる見守りと併せて、認知機能の低下等の兆候をAIが予測する実証実験を支援し、50世帯が参加した

② 医療情報自己管理アプリの実証実験

〔期間〕2018年12月3日～2020年12月2日

…医療機関が保持する患者の医療情報をスマートフォンなどで患者本人が管理できるサービスなどの実証実験を支援。市内3病院で800名以上が参加し、実証実験結果を基に2021年1月から正式実装した

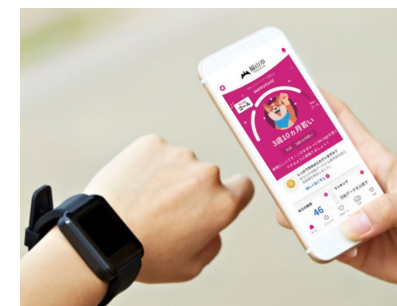


医療情報の自己管理で健康行動やコミュニケーションを促進

③ スマートフォンやスマートウォッチ型のウェアラブル端末を活用した健康増進アプリの実証実験

〔期間〕2021年3月22日～2022年3月31日

…専用の健康増進アプリを用い、歩数などのデータから算出される「実年齢からの若返り年齢」に応じて付与されるポイントをクーポンなどの特典と交換できるようにすることで、ウォーキング等の運動を促したり、参加者に対し、安静時心拍数や睡眠時間などのデータをもとに、体調変化の予兆を通知する実証実験を支援。約1,400人がアプリを登録



アプリ使用時のイメージ

※PHR：「Personal Health Record」の略。診療や投薬の記録や運動実績、身長や体重などの健康関連情報を一元管理する仕組みのこと。生涯型電子カルテ

実装内容

(写真・図：福山市提供)

オンデマンド乗合タクシー（2019年10月1日～）

【概要】

- 路線バスの維持が困難な地域において、AIを活用したオンデマンドモビリティシステムを活用し、地元タクシー事業者が、空いているタクシーを効率的に活用し、共同して配車サービスを実施
- 地域のニーズに合った運行内容とするため、各地域において、地域住民で構成される運営委員会を設置
- 2019年度から2020年度にかけて、単独地区での実証実験、複数地区をまたぐモデルと既存地区からの拡大モデルを検証し、順次導入地区を拡大

【導入実績】

- 2019年度：服部地区、緑陽地区
- 2020年度：芦田地区（福相学区・宜山学区・有磨学区）  
服部地区（服部学区・弥生ヶ丘団地）
- 2021年度：大門地区（野々浜学区）、郷分地区（泉学区）

【成果】

- コロナ禍でも、路線バスと比べ、1日当たりの利用者数が増加するなど、移動需要に応じた運行内容へ改善できた
- 路線バスの維持と比較して、市の負担する経費が低減した

【課題】

- 利用者は高齢者が多く、予約は電話によるものが多くを占めている。スマートフォンアプリの活用促進が必要



服部地区での実証実験の様子



緑陽地区での実証実験の様子